

網野町学校再配置検討分科会最終報告

1 はじめに

京丹後市網野町の地域には、現在、小学校が6校、中学校が2校ある。本分科会では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の学習環境をめぐる諸課題、さらには立地上の諸条件や耐震基準等からみた施設設備等の諸問題を踏まえ、全町域的な視野に立ち、様々な教育的観点から、今後の本町域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討を行った。

2 分科会開催経過（委員数24人）	出席者数
第1回分科会 平成19年 7月12日（木）	22人
第2回分科会 平成19年 8月 3日（金）	19人
第3回分科会 平成19年 9月 4日（火）	19人
第4回分科会 平成19年10月 9日（火）	19人
第5回分科会 平成19年11月 6日（火）	18人
第6回分科会 平成20年 1月15日（火）	13人
第7回分科会 平成20年 3月 4日（火）	20人
第8回分科会 平成20年 3月25日（火）	16人
第9回分科会 平成20年 4月10日（火）	14人
第10回分科会 平成20年 4月22日（火）	16人
第11回分科会 平成20年 5月15日（木）	17人
第12回分科会 平成20年 5月27日（火）	18人

3 分科会における議論

網野町における学校再配置の是非について議論し、現在2校ある中学校について先に検討し、中間まとめとして報告した後、6校ある小学校について再配置を検討してきた。

(1) 中学校再配置の是非について

2校ある中学校を再配置（統合）するならば、橘中学校を網野中学校にまとめる前提での協議になったが、橘中学校の存続の意見が強く、生徒数の推移から見て再配置を考えるならどの時期かについて検討してきた。

【特徴的意見】

- ・ 合併して市になったのに、旧町にこだわる理由は何か。まず統合ありきではないのか。
- ・ 統合すれば通学に時間がかかり、勉強や塾に時間の余裕がなくなる。
- ・ 小規模校、大規模校のメリットとデメリットを話す必要がある。このことは小学校の議論にも役立つ。
- ・ 網野の町域では、橘中学校が網野中学校に行く事になる前提の話になるが、橘の教育環境は極めて良い。
- ・ 義務教育の間は、徒歩か自転車で通学できるのが良い。
- ・ 2校の大きな違いは教員数と部活動(クラブ)と思う。専門外の授業を受け持つ

先生が橘中学校には多いのでは。

- ・ 橘地区も今は活気があるが、学校がなくなると寂れてしまうのではないか。磯や新庄がそうであったように。
- ・ 生徒数の推移を見ても、中学校は統合を今決心してもよいのではないか。中学校で終わりではなく、高校の前段階として広い地域とかかわり、刺激も必要だ。もちろん通学の不便を解決していかなければならないが。
- ・ 通学に100人程度の生徒を、毎日輸送する事が、果たしてきちんと出来るのだろうか。
- ・ 小規模校はコストがかかり過ぎている。例えば橘中学校が網野中学校の分校であれば校長は一人ですむ。民間の発想はこうだと思う。
- ・ 1学年が20人を割るようになると、部活動やその他のことにも男女比が影響してくる。統合の限界かと思う。

(2) 小学校再配置の是非について

ア 現状での存続の意見が強かった。

【特徴的意見】

- ・ 財政上の問題もあると思うが、小学校は歩いて通えるのが基本と思う。
- ・ 学校がなくなるとか地域が寂れるとかは二の次で、学校としてのあり方を話してはどうか。
- ・ 今の施設を活用することを前提に話をするには無理がある。
- ・ 校舎の新しい三津や郷の小学校もある。できるだけ残して欲しい。

イ 各校区ごとに地元の委員が意見を述べ、その後全体で質問を含めて検討した。

【特徴的意見】

- ・ 小規模校のよさはあるが、全校で30人程度になるとどこまでが適正な規模なのかの判断が難しい。
- ・ 小さな学校では子どもの上下関係がうまく作用してよく面倒を見て、下級生に頼られている。学力差もなく、デメリットは財政面しか見えない。
- ・ 複式学級に満足しない保護者もいるのではないか。
- ・ 複式のデメリットはないとの話だったが、子どもはどう思っているだろう。
- ・ 小規模校では児童会の役職や行事もみんなで頑張っているのは確かだ。
- ・ 保育所が合併したときも寂しいと言った意見もあったが、今はその声も小さい。
- ・ 学年1クラスで、親同士も顔見知り、愛護会・消防団等で地域と一緒に子育てしている。
- ・ 耐震強度の調査結果が気になっている。一日も早く補強工事がお願いしたい。
- ・ 南北の小学校は、校区の分け方にも多くの問題があった。当時に今の児童数が予測できなかったかどうかだが、今となれば南北を統合すべきだと思う。
- ・ 少年少女のサッカー・野球・バレーボールは南北が1つになってやっている。
- ・ 橘はかつて小学校が1つになり、中学校も保育所も近くにあり、小中学校の先生や地域の方も声を掛けやすい。児童数のことをのければ良い教育環境にあると思う。
- ・ 早く学校が一緒にならないとクラス替えの出来ない規模になったと心配する

声もある。

(3) その他

- ・ 網野北小学校は塩害がひどく、この先大きな改修等が必要になる。
- ・ 島津小や橘小の児童は、校区内でもヘルメットをかぶって自転車に乗っているが、旧の網野の街ではほとんど着用せず、保護者の考えにも差を感じる。
- ・ 南北を統合するにしても、元の場所の体育センター付近は、水害対策を考えると適当でない。

4 検討結果（論議の到達点）

(1) 中学校について

第5回までの分科会において、中学校の再配置を中心に検討し、第6回の分科会で中間報告としてまとめ、その後の小学校の再配置についての検討を見据えた上で、第12回分科会において下記のとおりまとめることができた。

ア 現在2校ある中学校を存続させることが望ましい。

- ・ 橘中学校については、小中一貫校をめざす意見もある。

イ 但し、生徒数が著しく減少する状況が続く時期には、網野中学校への統合も止むを得ない。

- ・ クラブ活動、男女比等も考慮してクラスが20人を割り込む時期が、再配置の実行の時期と考える。
- ・ 特に再配置については、通学の利便性、安全性の他、経済的負担の軽減に配慮した通学方法の確保が必要。

(2) 小学校について

第7回分科会以後は、小学校の再配置についての検討を重ねる中で、地域から学校がなくなることへの不安や存続を願う意見が多く出された。しかし、すでに複式学級が取り入れられている学校や、今後の児童数の減少から数年先に、新たに複式学級が始まる学校等も明らかになり、更に保育所の統合が先行している状況から、再配置を考える意見も出された。

また、耐震強度の調査結果から、存続と改築を併せて検討しなければならない学校もあり、意見は出尽くしたものの委員24人の意見を1つにまとめることは難しいため、検討結果を併記することにした。

ア 現在の小学校6校を存続させることが望ましい。

イ しかし、児童数の減少等による複式学級の問題等を考慮し再配置を考える場合には、

(ア) 第一段階として

- ① 現在6校ある小学校の内、橘小学校は現状のとおり存続させる。
 - ② 他の5校の小学校については、網野北小学校・網野南小学校・島津小学校の概ね3校にまとめる。
- ・ 島津小学校については、耐震強度の問題があり、新築するかまたは可能であれば補強工事等によって安全性を確保する。

(イ) 第二段階として

南北の小学校を再配置（統合）し、橘小学校、島津小学校を含めた1校とする。

- ・ 橘小学校については、中学校の再配置計画の進行に合わせ、同時に再配置されることもあり得る。
- ・ 島津小学校は、複式学級が取り入れられる児童数をめどに統一した学校への吸収統合を考慮する。

(3) 再配置を進めるうえでの条件

ア 校舎について

- ・ 南北の小学校の統合は、三津小学校・郷小学校さらに島津小学校までの統合を見越すと、現存の南北いずれかの小学校用地の活用は困難だと思われる。従って、桃山地区または網野駅周辺に適切な用地を確保する事が必要と思われる。

イ 通学方法について

- ・ 南北の小学校以外の学校統合が進行する場合は、通学距離や通学の所要時間など一定の整理をしスクールバスの運行が必要である。
- ・ 通学路の安全を確保する。

ウ 跡地の活用について

- ・ 使わなくなった校舎や跡地の活用について、地域が活気づくような有効な活用をお願いしたい。学校施設が地域の避難場所になっている学校もあり、その点についても検討をお願いしたい。

5 検討委員会への提言・要望等

この分科会での検討結果を尊重していただき、学校再配置の実施に当たっては、通学についての安全確保の他、実施時期については地域住民との十分な協議を行い理解が得られるようにお願いします。

京丹後市網野町学校再配置検討分科会